

## 1 研究テーマ

通常の学級の国語科における、一人一人の表現力育成をめざした授業づくり  
～授業のユニバーサルデザイン化による、「わかる・できる」授業づくり～

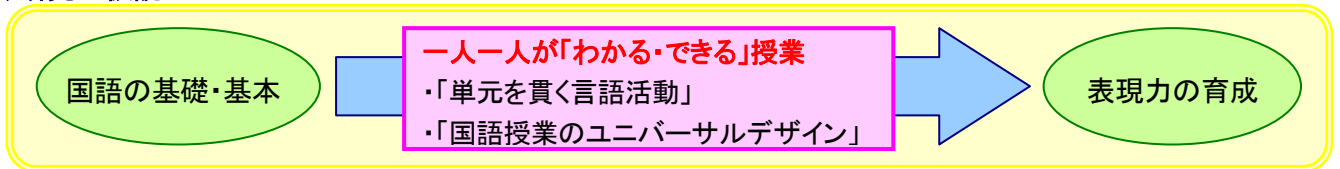
## 2 はじめに

国語科の授業は、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の力を身につけることを目標として行われている。しかし、日々の児童の姿に、言葉による表現のつたなさや言葉で表現することへの苦手意識を感じることもある。

児童の言葉での表現力を育てるためには、「わかる・できる」授業を通して、適切な表現方法や内容を一人一人の児童が理解し、活用できるようにすることが必要ではないだろうか考えた。

## 3 研究目的

### (1) 研究の仮説



### (2) 研究方法

#### ① 理論研究

ア 国語科教育について(国語の基礎・基本とは?) イ 特別支援教育について(どんな工夫や配慮を?)

#### ② 所属校での授業実践(第2学年25名)

ア せつめいの文をくらべて読もう「ふろしきは、どんなぬの」(全11時間)

イ なるほど! そうなんだ! 本を読んで「ひみつクイズ」を作ろう「ビーバーの大工事」(全17時間)

## 4 研究内容

### (1) 実践① せつめいの文をくらべて読もう「ふろしきは、どんなぬの」(全11時間) (7/3~7/12)

【ねらい】 説明の表現様式の違いを考えたり、「質問」と「答え」の内容を表す大事な言葉や文を見つけたりしながら構成上の順序に気を付けて二つの文章を読み、それぞれの内容を読み取る



#### 国語授業のユニバーサルデザイン化に向けて

【焦点化】①目標中の活動部分をめあてとして掲示する

②本文の必要な部分だけ拡大して掲示する

⇒スムーズに学習に取りかかることができた

【視覚化】①同じもの、対になるものを色分けして掲示する

②掲示物を使って説明させる

⇒同じもの、対になるものという文や文章同士の関係が捉えることができた

⇒話題に沿った話し合いができた

【共有化】①ペアの友だちと説明し合う

②重要な発言を再現させる

⇒発言する児童が増えた

⇒お互いの考えに気づき、認め合うことができた



ユニバーサルデザインでの工夫や配慮は、児童の学習をスムーズにし、理解を深めることにつながった。



(2)実践② なるほど！ そうなんだ！ 本を読んで「ひみつクイズ」を作ろう「ピーパーの大工事」(全 17 時間)

(10/26~11/9、11/21~11/22)

【ねらい】 自分がクイズ作りに使いたい文章を選び、文章の事柄の順序に沿って書かれている内容を読み取ったり、主語と述語が照応したクイズを作ったりする

**理解**

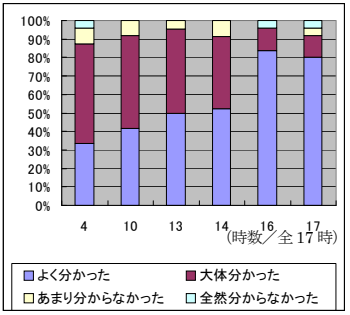
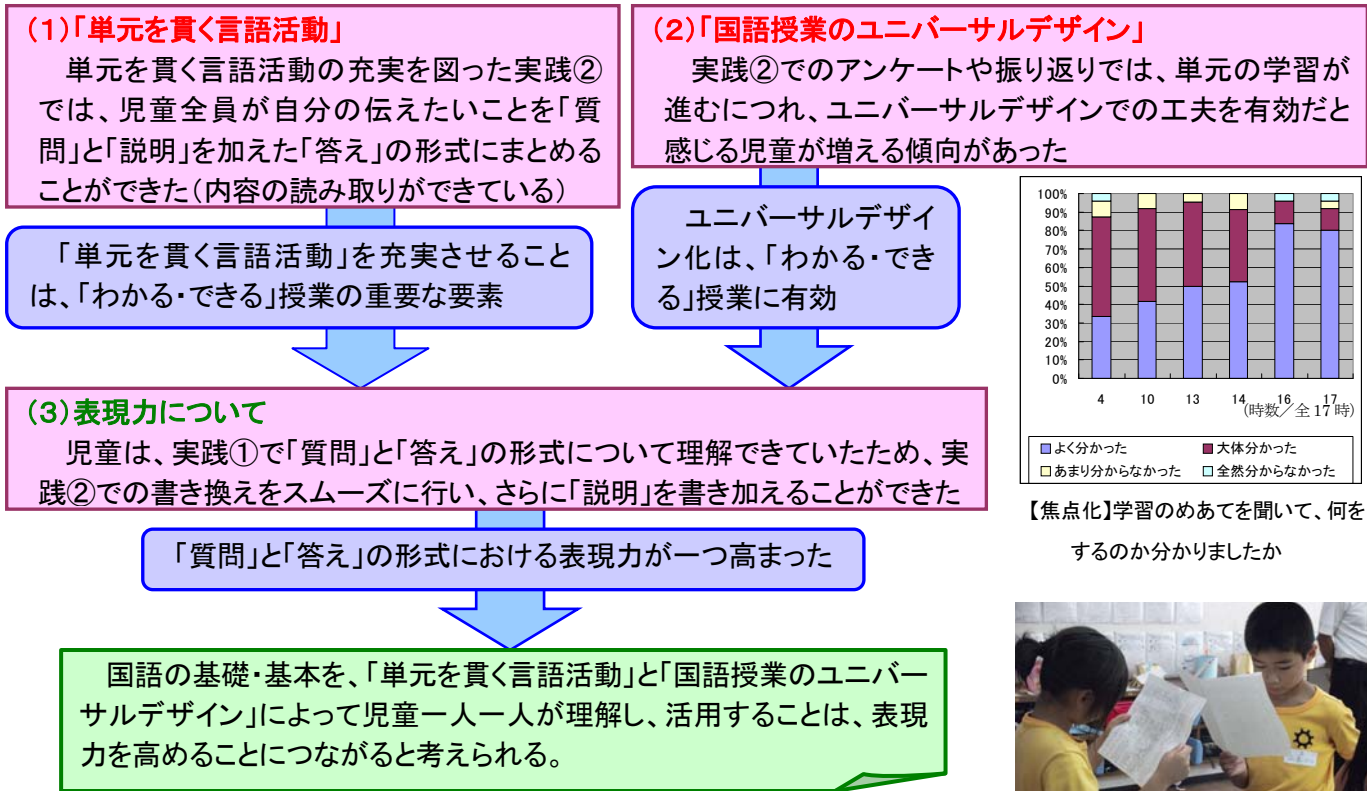
**【展開部】**  
①中核教材でのクイズ作り  
⇒「説明」が書けない

**【発展部】**  
②副教材でのクイズ作り  
⇒「説明」は「答え」の繰り返し  
③補助教材でのクイズ作り  
⇒個別の支援の結果、適切な「説明」が書けた

**活用**

単元を貫く言語活動を設定し、活動を繰り返すことで、身につけたい力の理解を深め、活用に近づくことができた

5 研究のまとめ



【焦点化】学習のめあてを聞いて、何をするのか分かりましたか



6 今後の課題

- ①単元を貫く、最適な言語活動を行うため、様々な言語活動そのものの研究を行う
- ②学習の理解を深めるため、より一層の授業の工夫、支援が必要な児童により適した支援の内容を考えていく
- ③授業で身につけた力の日常化のため、他教科や日常的な活動などと関連させた表現活動を工夫していく

7 おわりに

「単元を貫く言語活動」と「授業のユニバーサルデザイン」は、一人一人が「わかる・できる」授業を実現する上で、今後広げていきたいことであるが、あくまでも手段である。身につけさせたい力を見失わず、児童が学ぶ意欲をもてる楽しい授業、日常生活の様々な場面とつながった授業に少しでも近づけていきたい。